

～ ダストン君と学ぶ、佐世保の脱炭素 ～

ゼロカーボンSASEBO通信

“台風・停電に負けない！暮らしを守る「エコ×防災」”

2050年カーボンニュートラルを目指す佐世保市。ダストン君と一緒に、佐世保市の脱炭素に関する取り組みを学び、未来を守る第一歩を踏み出しましょう！

●「日常のエコ」と「万一の安心」を両立する備えとは？

8月・9月は、台風や突発的なゲリラ豪雨が多い季節です。今年もすでに日本各地で異常気象による甚大な被害が発生しています。

さて、気候変動対策には、地球温暖化そのものを防ぐ「緩和」と、災害の被害を小さくする「適応」という2つの考え方があります。

今回は、「日常のエコ」と「万一の安心」を両立する備えをご紹介します！

日常

 **緩和**
原因を少なく

2つの
気候変動
対策

 **適応**
影響に備える

非常時



太陽光パネル + 蓄電池



電気を「創って・ためて・使う」自給自足で、電気代を賢く抑制。

停電時も、日中は太陽光、夜は蓄電池で電力を確保。スマホの充電や冷蔵庫の保冷など、非常時の暮らしを守ります。



電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド車(PHEV)



ガソリン代を節約し、温室効果ガス(CO₂)を抑えて快適なドライブ。

EVやPHEVは、大容量の「走る蓄電池」です。給電専用機器(V2H等)を経由することで、停電時でも家庭へ送電が可能です。
(※車種・バッテリー残量による)



断熱性の高い住宅(ZEH:ゼッチ等)



夏は涼しく、冬は暖かい家で、冷暖房費を抑えられます。

ZEH(ゼッチ)は、省エネと創エネにより年間のエネルギー収支ゼロを目指す住宅。断熱性に優れているため、停電でエアコンが止まっても室温が保たれやすく、熱中症や冬場のヒートショックのリスクを軽減します。

●佐世保市の公共施設も「エコ×防災」へ進化中！

佐世保市役所でも、市民の安全を守り、安定して行政サービスを提供し続けるために、脱炭素化による災害に強い施設づくりを進めています。

避難所のパワーアップ

地域新電力会社「西九州させぼパワーズ」と連携し、避難所などの防災拠点の一部に太陽光発電設備と蓄電池を導入しています。これにより、災害による停電時でも避難所の機能を維持できるようになります。

施設のZEB化・公用車のEV化

地球温暖化対策や将来のエネルギー価格高騰への備えとして、以下取り組みの検討を進めています。

- 公共施設の新築や大規模改修時における省エネ性能を高めた施設(ZEBなど)の導入
- 公用車の更新時における電気自動車(EV)等の導入

●今日からできる！身近な「エコ×防災」アクション

太陽光パネルの設置やEVの導入などはハードルが高いと感じる方も、家庭や職場で今日から始められる身近な取り組みをご紹介します！

ローリングストックで食品ロス削減

日常の中に非常食を取り入れ、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。いざという時の食料や飲料水(最低3日～1週間分)を確保しながら、賞味期限切れによる食品ロスも減らせます。



ポータブル電源・ソーラー充電器の活用

アウトドア等でも活躍するソーラー充電器やポータブル電源は、停電時の強い味方。ガソリン式の発電機と異なりCO₂が出ないことはもちろん、一酸化炭素中毒の危険がないため室内でも安全に使えます。



エコな生活は、いざという時に自分と大切な人を守る「賢い備え」になるとよ。台風シーズンを迎えるこの機会に、家庭や職場でできる備えを見直してみらね？

